クリニカルパスウェイ
顔面神経麻痺の治療を受ける患者さんへ

平成28年4月作成
東京慈恵会医科大学西部医療センター

患者番号　@PATIENTID　　**患者氏名**　@PATIENTNAME

	外来（入院前）	入院1日～2日目	入院3日～5日目	入院6日～10日目	退院
日時	月　日	月　日	月　日	月　日	月　日
目標	□安静にして、症状の悪化を防ぎましょう	□点滴治療を受け、ゆっくり休息をとりましょう	□点滴治療を受け、ゆっくり休息をとりましょう	□点滴治療を受け、ゆっくり休息をとりましょう	□診察後、午前中に退院します
食事	□制限はありません	□制限はありません □必要時制限食となります	→	→	
活動	□制限はありません	□めまいやふらつきなどがある場合は転倒の危険があるため、無理に1人で動いたりせず、看護師にお知らせください	→	→	□退院後の外来予約票をお受け取りください
検査処置	□採血・レントゲン等があります □場合により内科や眼科診察、聴力検査やMRI検査を行います	□4階の耳鼻処置室で診察します □血糖値を1日3回測定する場合があります □顔の血流改善と拘縮予防のために、医師の指示に基づきマッサージを行います マッサージを開始する時はパンフレットをお渡しします 1日10分　2-3回行いましょう 蒸しタオルで温めてから行うとより効果的です □場合により、リハビリがあります	□4階の耳鼻処置室で診察します □血糖値を1日3回測定する場合があります	□4階の耳鼻処置室で診察します □血糖値を1日3回測定する場合があります □治療経過によって、点滴治療を2クール行うことがあります	□4階の耳鼻処置室で診察します
薬	□普段飲んでいる薬は医師の指示に従い内服してください	□常用薬は医師の指示に従い内服してください □入院後、薬の内容を確認しますので、ご持参ください □目がしっかり閉じられず、乾燥する場合は目薬を使用します □ステロイドを点滴します □症状改善を目的として、ビタミン剤、循環改善薬、副作用対策として胃薬を内服します	**<点滴治療とは>** ・ソル･コーテフというステロイドホルモンを点滴します ・500mg-400mg-300mg-200mg-100mgというように5日間かけて点滴します これを1クールといいます ・症状により　2クール行う場合があります		
清潔		□シャワー浴は可能です	→	→	
指導説明	**<入院持参物品>** □常用薬（7日分） □この説明書 □日常生活用品	□ゆっくり休むことも回復には必要です □ステロイド治療の副作用で眠れない場合は入眠剤をお渡しします □入院中は、感染予防のため、手洗い・うがい・マスクの着用をお願いします	□点滴の副作用として胃部不快感・むくみ・体重増加・吐き気・発疹・血圧上昇（動悸・頭痛）があります 症状がある時は看護師にお知らせください	**<退院後の生活>** ・ゆっくりと過ごせる環境を整えましょう ・退院処方がある場合は、指示通りに内服してください ・麻痺の回復には個人差がありますので、外来にて経過をみていきます ・入院中、顔のマッサージをしている方は、退院後も継続してください ・退院後もステロイドの影響で胃部不快感、むくみ、発疹などの症状が続く場合があります ・知覚低下や顔面の筋肉の動きづらさにより、口の中に食物が残りやすくなります ・口内炎を起こすことがありますので、口の中を清潔にし、火傷などに注意してください ・退院後も手洗い・うがい・マスクの着用を継続し、感染対策予防に努めましょう	